

參照

○在外公館費用條例

明治二十六年十月
勅令第百七十一號

外務大臣
副署

別表第一號

大使館公使館及國際會議帝國事務局職員在勤俸

官名	任所	支
特命全權大使		二六〇〇〇
特命全權公使		一〇〇〇〇
大使館 高等官一等		九〇〇〇
大使館 高等官二等		六〇〇〇
大使館 一等書記官		四〇〇〇
大使館 二等書記官		三〇〇〇
大使館 三等書記官		二〇〇〇
大使館 理事官 五等以上		三〇〇〇
大使館 理事官 六等		二〇〇〇
大使館 理事官 七等		一〇〇〇
副領事 高等官六等		一〇〇〇
副領事 高等官七等		一〇〇〇
外交官 補		一〇〇〇

(略)

(略)

參照

○ 在外公館費用條例

明治二十六年十月
勅令第百七十一號

外務大臣
副署

別表第二號

領事館職員在勤俸

官名	任所		分館主任、出張所主任	副領事			領事官補	外務						
	倫敦	乙甲		高等官五等以上	高等官六等	高等官七等		判任特別一級俸	判任二級俸	判任三級俸	判任四級俸	判任五級俸	判任六級俸	判任七級俸
錦州	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	二,一〇〇	一,八〇〇	一,六五〇	一,五五〇	一,八〇〇	一,五五〇	一,三〇〇	一,〇〇〇			
赤峰	三,二〇〇	三,二〇〇	三,二〇〇	二,一〇〇	一,八〇〇	一,六五〇	一,五五〇	一,八〇〇	一,五五〇	一,三〇〇	一,〇〇〇			
承德	三,二〇〇	三,二〇〇	三,二〇〇	二,一〇〇	一,八〇〇	一,六五〇	一,五五〇	一,八〇〇	一,五五〇	一,三〇〇	一,〇〇〇			
張家口	六,七〇〇	六,七〇〇	六,七〇〇	二,五〇〇	二,二五〇	二,一〇〇	一,九五〇	一,八〇〇	一,五五〇	一,三〇〇	一,〇〇〇			
北平	五,五〇〇	五,五〇〇	五,五〇〇	二,五〇〇	二,二五〇	二,一〇〇	一,九五〇	一,八〇〇	一,五五〇	一,三〇〇	一,〇〇〇			
天津	八,〇〇〇	八,〇〇〇	八,〇〇〇	三,一〇〇	二,八〇〇	二,六〇〇	二,四〇〇	二,二五〇	二,〇〇〇	一,七〇〇	一,四〇〇			
山海關	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	二,五〇〇	二,二五〇	二,一〇〇	一,九五〇	二,二五〇	二,〇〇〇	一,七〇〇	一,四〇〇			

(中略)

(後略)

參照

昭和十二年度外務省所管豫算

歲出經常部

第二款 在外公館

第一項 俸給

第二目 奏任俸給

節	員數	一人當年額	金額	備考
第一節 一等書記官	二四	三、六四〇	七八、五六四	二人ハ待命全額 一人ハ待命三分ノ一(二、二一 内四圓) 二人ハ六ヶ月分(三、六四〇圓) 一人ハ三ヶ月分(九一〇圓)
第二節 商務書記官	七	三、六四〇	二五、四八〇	
第四節 二等書記官	二八	三、二〇〇	八三、六六七	一人ハ待命三分ノ一(一、〇六 内七圓)

第七節 三等書記官	三七	二、五七〇	九一、二三五	三人ハ六箇月分 (四、八〇〇圓)
第十節 副領事	七三	二、二八〇	一五八、四六〇	内 三人ハ待命全額 三人ハ六ヶ月分 (三、八五五圓)
第十二節 一等通譯官	一五	二、五七〇	三五九八〇	内 二人ハ六ヶ月分 (二、五七〇圓)
第十二節 二等通譯官	九	一、五〇〇	一一、二五〇	内 三人ハ六ヶ月分 (二、二五〇圓)
第一節 書記生及通譯生	四一三	九八五	三八三、一七二	内 五人ハ電信書記生 一人ハ商務書記生 二人ハ六ヶ月分 (一一、八二四圓) 一人ハ三ヶ月分 (三、九四三圓)

第三目 判任俸給

(日本標準規格B4判) (木村納)

◎太原

太原ハ魯山西省政府所在地ニシテ^正太鐵道終點ニ當リ事變前ノ人口約十六萬商工業及ヒ農產物集散ノ中心地ニシテ事變前ハ閩錫山政權ノ排日的妨害ニ依リ邦人ノ發展阻害セラレ居タルモ今後ハ山西省ニ於ケル莫大ナル礦產其他ノ資源開發ノ爲メ邦人ノ發展大ナルモノアルハシト豫想セララル

◎大同

大同ハ平綏線ノ要衝ニ當リ人口約十萬附近炭田ノ中心地トシテ名アリ目下同地ヲ中心トスル雁門以北十三縣ヨリ成ル省北自治政府ノ首府ニシテ政治上重要ナルノミナラス將來同方面炭田ノ開發等我方今後ノ經濟開發上ニモ頗ル重要ナル地點ナリ

秘

電信寫

昭和二十九年一月廿五日

本名

山田外務大臣

第五

其電報四地ニ送シ左ノ通り

大同ハ現在人口約七萬普北自治政府政ニ後宮兵團司令部所在地

ニシテ居住邦人一千餘名アリ同地附近石炭ノ埋蔵量ハ概算トシテ

セラレ目下諸般ノ液^〇化^〇工場及大量輸出ヲ計畫シ調査ヲ進メツツア

ル候條ナリ又同部鐵道モ本年二月中ニハ完成ノ見込ニテ目下諸般

ニ於テ工事ヲ急キツツアル由ナルカ之カ完成ノ上ハ同部鐵道ト京

線トノ交又點トナリ山西智ノ資源開發上最モ地ノ利ヲ占ムルコト

トナリ最近各種商工業者ノ注目ヲ惹キ邦人ノ入込盛ナリ

二級連ハ總人口八万餘蒙古聯盟自治政府所在地ニシテ蒙側ノ各種

關アリ特ニ寧夏、甘肅及蒙古一帯ヨリ集散スル羊毛ハ年産約三

千万圓ト稱セラレ既報邦人羊毛同業會ノ買付事務所ヲ開設シ工場

建設計畫中ナリ現在皇軍約一箇聯隊邦人約四百ナルモ當地駐軍

司令部ハ元來綏遠陞屯豫定ニシテ軍ノ兵營ノ建設計畫アルヤニ仄

聞、將來内蒙政治ノ中心トナルハ勿論蘇聯ノ外蒙ヨリスル内蒙赤

化乃至ハ寧夏、甘肅及新疆方面ニ於ケル燭角ヲ抑壓セントスル軍

働工作ノ中心地ト目サルハク特務機關ノ如キモ機關長同地ニ駐在

シ寧夏、甘肅ノ回教徒懷柔ニ力ヲ盡シ居リ政治上、軍事上相當活

動ナル發展ヲ見ルモノト豫想セララル

三、包頭ハ京綏線ノ尖端ニ位置シ現居住邦人約百名寧夏、甘肅、陝西及外蒙ヘノ要路ニシテ皮革、羊毛、綫類等同地方特産物集散ノ要衝ニ當リ又異地五原附近一帯ハ灌溉ニ適シ最近ノ事情詳ナラサルモ察蒙前ハ百餘名ノ朝鮮人水田經營者居住シアリ將來鮮農ノ増加發展ヲ見ルモノト思料セラル尙一面外蒙、新疆ヲ經テ蘇聯トノ接壤地ナル爲謀報國ノ擴充強化ノ要アリト認メラル

以上ノ狀況ニシテ異地資源開發事業ノ進展如何ニ依リ邦人發展ニ變化ヲ見ルヘキモ現在ノ所綏遠ニ分館ヲ、大同ニ出張所ヲ、包頭ニ出張員ヲ夫々警察ヲ附屬セル配(置)ヲ必要ト思料セラル(近キ將來ニ於テハ少クトモ綏遠ニ總領事館、大同、包頭ニ領事館ヲ設置スヘキ必要アルヘシ)北平へ轉電セリ

秘

電信寫

昭和15

一七五四

略

北平 本省

一月廿一日

廿一日夜

通

畑田外務大臣

森島參事官

第九〇號ノ一

貨電第三三號ニ關シ（太原出張所ニ關スル件）

與津副領事ノ報告ニ依レハ現在太原在住本邦人約四百名（内歸人約一五八）ニ達シ營業ヲ許可セル者内地人六三、歸人二三アリ尙西北
 實業公司所屬ノ各工場、鎮山等ヲ除キ、興中、大倉製藥、織紡、豐
 田紡績、東洋紡績、東亞煙草、日本製粉、王子製紙、日本化學、淺
 野「セメント」會社等ニテ夫々經營ヲ爲スコトトナリ居ル模様ニテ
 現ニ夫々先發員ヲ滯留セシメ居ル狀況ナルヲ以テ近ク交通路ノ復舊

ト共ニ是等關係各會社ノ進出ヲ見ル時ハ本年中ニ少クトモ約二千名
ヲ突破スルコト想像ニ難カラサルモノアリ且又現在在留本邦人ノ保
護取締事務ハ臨時特務機關ノ下ニ於テ外務出張員ノ手ニテ處理シ居
ルモ（續ク）

秘

電信寫

昭和13 一七五三

暗

北平 一月廿一日後發
本省 廿一日夜着

亞 滿

廣田外務大臣

森島參事官

第九〇號ノ二

在留民ノ増加乃至軍行動ノ進展變化ト共ニ特務機關ニ於テ引續キ之ヲ取扱フコトハ要則ナルノミナラス實際ニ於テモ不可能ナル事態ニ立至ルヘキコト明瞭ニシテ成ルヘク速ニ外務省本來ノ事務ヲ開始スルコト必要ナリト認メラル又太原ノ現狀ハ客年十二月臨時召集籌備委員會ノ成立ト本年一月十五日第一次縣長會議開催後後興氣分旺盛トナリ城內復讐客數約五萬ニ達シ支那店舗モ日ト共ニ増加シツツアリテ今後一、二箇月ノ後ニハ約十萬人ニ達スヘク前記各工場ノ事業

濟

外甲一二

昭和十三年 三月十八日

内閣書記官長

内閣書記官

十三三三九
十三三三五

内閣總理大臣

法制局長官



外務大臣

延

陸軍大臣

五

文部大臣

五

逓信大臣

五

厚生大臣

五

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

興

司法大臣

五

商工大臣

五

拓務大臣

五

別紙外務大臣請議外務部内臨時職員設

置制中改正ノ件請議

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

治部省

機密

法制局

法制局外第四号

人機密第三七六號

主任者、人事課、乙津

日

外務大臣 廣田 弘



內閣總理大臣公爵近 衛 文 麿 殿

外務部內臨時職員設置制中改正ノ件請議

本件ニ關シ別紙案文ノ通勅令御發布相成候様致度此段及請議候也

外甲一二

外務省

12.11

192

IMT 646



朕外務部内臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年三月二十四日

内閣總理大臣



公磨近衛

衛

文

磨

外務大臣



廣田

弘

毅

外務省

勅令第百三十八號

外務部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第四條中「領事 專任一人」ヲ「領事 專任二人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ三年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

理由

北支方面ニ於ケル警察事務ノ情勢ニ鑑ミ領事増員ノ必要アルニ因ル

外
務
省

参照

外務部内臨時職員設置制

昭和三年五月
勅令第廿八號
(總理外務大臣副署)

第四條 外國ニ於テ主トシテ警察事務ニ從事セシムル爲領事館ニ左ノ職員ヲ置ク

- | | |
|-----|------|
| 領事 | 專任一人 |
| 副領事 | 專任三人 |
| 書記生 | 專任二人 |
| 通譯生 | 專任一人 |

參照

昭和十二年度外務省所管追加豫算
歲出臨時部

第五款 在外國居留民臨時保護取締費

第一項 俸給

第一目 奏任俸給

一、一七八円

節	員數	一人當年額	金額	備考
第一節 警視	四	二、七七 <small>円</small>	九二四 <small>円</small>	一箇目分
第二節 領事	一	三、四〇	二五四	同



外甲 一三

昭和十三年三月十八日

内閣書記官長



内閣書記官



昭和十三年三月十九日

内閣總理大臣 友

法制局長官



外務大臣

友

陸軍大臣

友

文部大臣

友

逓信大臣

柳 印

厚生大臣

友

内務大臣

友

海軍大臣

友

農林大臣

友

鐵道大臣

友

大藏大臣

興

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

友

別紙外務大臣請議大正五年勅令第百九十六號申改正、件請議ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

機密

人機密第三七七號

昭和十三年二月十九日

主任者、人事課、乙津

外務大臣 廣田 弘

法制局

佐藤

内閣總理大臣公爵近 衛 文 磨 殿

大正五年勅令第九十六號中改正ノ件請議

本件ニ關シ別紙案文ノ通勅令御發布相成候様致度此段及請議候也



法制局外第 五 号



外甲 一三

外務省

朕大正五年勅警察官ニ關スル件 中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

ム

御名御璽

昭和十三年 三月二十四日

内閣總理大臣

外務大臣

外務省

勅令第百二十九號

大正五年勅令第百九十六號中左ノ通改正ス

第二條中「七人」ヲ「十一人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外務省

勅令第百二十九號

大正五年勅令第百九十六號中左ノ通改正ス

第二條中「七人」ヲ「十一人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ三、年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

外務省

理由

北支方面ニ於ケル警察事務ノ情勢ニ鑑ミ外務省警視増員ノ必要アルニ因ル

外務省

(参考)

大正五年勅令第九十六號ハ外國在勤ノ外務省警察官ニ關スル件ナ
リ

第二條 警視ハ專任七人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ警察事務ヲ掌リ警
部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス

参照

●大正五年勅令第九十六號（外
國在勤ノ外務省警察官ニ關スル
件）

大正五年八月八日
勅令第九十六號

改正 大正七年第二九一號、八年第二四九號、一〇年第三八六號、一一年第五〇七號、一
四年第六三號
昭和三年第一五六號、七年第一八號

朕外國在勤ノ外務省警察官ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、外務
大臣副署）

第一條 外國ニ於テ警察事務ニ従事セシムル爲外務省ニ警視、警部、警部
補及巡查ヲ置キ領事館ニ分屬セシム

第二條 警視ハ專任七人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ警察事務ヲ掌リ警部、警
部補及巡查ヲ指揮監督ス

第三條 警部ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ニ従事シ警部補及巡查
ヲ指揮監督ス

第四條 警部補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ニ従事シ巡查ヲ指揮
監督ス

第五條 巡查ハ判任官ノ待遇トス上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ニ従事ス
巡查ノ任用ニ關スル規定ハ外務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



參照

昭和十二年度外務省所管追加豫算

歲出臨時部

第五款 在外國居留民臨時保護取締費

第一項 俸給

第一目 奏任俸給

節

第一節 警視

人員	一人當年額	金額	備考
四人	二七七〇 _円	九二四 _円	一月分

一、一七八_円



外甲二九

昭和十三年 四月十四日

内閣書記官長



内閣書記官



昭和十三年四月十四日

内閣總理大臣 友

法制局長官



外務大臣

三

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

厚生大臣

五

内務大臣

奉

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

五

大藏大臣

興

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

五

別紙外務大臣請議外務省官制中改正ノ件外三件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

十.

法 制 局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

法
律
局

人機密第五五六號

昭和十三年三月二十四日

外務大臣 廣田 弘



內閣總理大臣公爵近 衛 文 磨 殿

一、外務省官制中改正ノ件

一、外務部內臨時職員設置制中改正ノ件

一、在外公館職員定員令中改正ノ件

一、在滿洲國大使館ニ教務事務官等ヲ置クノ件中改正ノ件

本件ニ關シ別紙案文ノ通勅令御發布相成候様致度此段及請議候也

外甲 二九

外務省

朕外務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十三年四月二十一日

内閣總理大臣

外務大臣

外務省

勅令第二百七十一號

外務省官制中左ノ通改正ス

第十二條中「外務事務官專任六十二人」ヲ「外務事務官專任六十四人」ニ改ム

第十三條中「翻譯官專任五人」ヲ「翻譯官專任六人」ニ改ム

第十五條中「技師專任一人」ヲ「技師專任二人」ニ改ム

第十六條中「百七十八人」ヲ「百八十三人」ニ改ム

第十八條專任八人」ヲ「技手」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由	<p>一、為替管理強化ニ伴ヒ通商局ニ於ケル事務敏系激ヲ加ヘタル爲同局ニ、左記職員ヲ増置セントスルモノナリ</p>
事務官	二
屬	四
計	(六)
翻譯官	一
屬	一
<p>ニ蘇聯邦ヲ中心トスル特殊ナル國際情勢ニ對應センガ爲調査部第三課ヲ充實ニ伴ヒ左記職員ヲ増置セントスルモノナリ</p>	

外務省

本省並ニ在外公館ニ於ケル營繕事務ノ激増ニ伴ヒ左記職員ヲ増置

セントスルモノナリ

計 (二)

技師 一

技手 二

計 (三)

外務省

朕外務部内臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十三年四月二十一日

内閣總理大臣

外務大臣

外務省

勅令第二百七十二號

外務部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第一條中「**技手**」ヲ「**技手**」ニ改ム

第一條ノ二ヲ削ル

第二條 時局ニ要事務ニ從事セシムル爲外務省ニ左ノ職員ヲ置キ大

臣官房、東亞局、歐亞局、亞米利加局及通商局ニ分屬セシム

書記官 專任一人

翻譯官 專任一人

理事官 專任一人

屬 專任十五人

外務省

第三條及第三條ノ二ヲ左ノ如クニ改メテ

第三條 時局ニ關スル事務ニ從事セシムル爲在外公館ニ左ノ職員ヲ置ク

大使館參事官 專任一人

大使館一等書記官 專任一人

大使館三等書記官
公使館三等書記官 專任四人

大使館理事官 專任一人

副領事 專任一人

外交官補
領事官補 專任二人

書記生
通譯生 專任八人

外
務
省

ニヲ削リ第四條ヲ第五條トス

第三條ノ三ヲ第四條トシ同條中「大使館理事官」公使館理事官」ヲ專任一人」ヲ

削リ「書記生 專任二人」ヲ「書記生 專任一人」ニ改ム

第六條 治外法權撤廢ニ因ル司法關係殘務處理ノ爲在外公館ニ左ノ

職員ヲ置ク

領事 專任四人

書記生 專任四人

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外務省

在外公館理由

在外公館修築ニ關スル事務ノ増加及治外法權撤廢ニ因ル司法關係ノ殘務處理ノ爲職員ヲ増員シ、從來滿洲事件ニ關スル事務等ニ從事セシメタル職員中治外法權ノ撤廢ニ因リ不要ト爲リタル警察關係職員ヲ減員シ其ノ他ノ職員ハ豫算上滿洲事件費ノ廢止ニ伴ヒ臨時外交施設費ニ依ル職員トシテ時局ニ關スル外交事務ニ從事セシムルコトトシ、研究所及圖書館ノ新築完了ニ伴ヒ之ニ從事シタル職員ヲ減員シ竝ニ滿洲國ニ在リテ主トシテ教育ニ關スル事務ニ從事シタル職員ヲ在滿大使館教務部職員ニ振替フル爲本令中改正ノ要アルニ依ル

説明書

一 在外公館修築ニ關スル事務繁激ニ伴ヒ左記職員ヲ臨時増置セントスルモノナリ（此ノ分追加豫算ニ依ル）

技手 三

二 昭和十三年度ヨリ滿洲事件費豫算ノ廢止ニ伴ヒ左記職員ヲ臨時外交施設費へ振替ヘントスルモノナリ

(1) 時ニ關交事務ニ從事セシムル爲大臣官房、東亞局、歐亞局、亞米利加局及通商局ニ分屬ノ分

書記官 一

事務官 四

翻譯官 一

外務省

理事官

一

屬

一五

計

(二二二)

(備考) 右ハ從來ノ「滿洲事件ニ關スル事務從事臨時職員」及

「滿洲及蒙古ニ關スル事務從事臨時職員」ヲ包含ス

同時局外交事務ニ從事セシムル爲在外公館ニ分屬ノ分

大使館參事官

一

大使館一等書記官

一

大使館三等書記官
公使館三等書記官

四

大使館理事官

一

外務省

副領事

一

外交官補
領事官補

二

書記生
通譯生

八

計

(一八)

(備考) 右ハ從來ノ「滿洲事件」ニ關スル事務從事在外公館臨

時職員」ヲ包含ス但シ右ノ内大使館理事官一名及書

記生三名ハ治廢關係ニ依ル整理ノ爲減員セラレタリ

(第五號参照)

治外法權撤廢後殘務整理ノ要アルニ付昭和十三年度限り左記司法
職員ヲ臨時増置セントスルモノナリ

外務省

副領事

一

外交官補
領事官補

二

書記生
通譯生

八

計

(一八)

(備考) 右ハ從來ノ「滿洲事件」ニ關スル事務從事在外公館臨

時職員」ヲ包含ス但シ右ノ内大使館理事官一名及書

記生三名ハ治廢關係ニ依ル整理ノ爲減員セラレタリ

(第五號參照)

治外法權撤廢後殘務整理ノ要アルニ付昭和十三年度限り左記司法
職員ヲ臨時増置セントスルモノナリ

外務省

(司法)領事 四

(司法)書記生 四

計 (八)

四 研究所及圖書館新築費ハ事業終了ニ伴ヒ豫算ノ減少ヲ見タルニ付
左記臨時職員ヲ減ゼントスルモノナリ

技師 一

技手 二

計 (三)

五 治外法權撤廢ニ伴ヒ警察機關減少ノ爲「滿洲事件」ニ關スル事務從
事在外公館臨時職員」中左記ノ通減員セントスルモノナリ
大使館理事官 一

書記生

三

計

(四)

六 治外法權撤廢ニ伴ヒ在滿大使館ニ教務部ノ新設ヲ見タルニ付從來

「外國ニ於テ主トシテ教育ニ關スル事務從事臨時職員」トシテ配

屬職員中左記ノ者ヲ教務部職員ニ夫々振替ヘントスルモノナリ

大使館理事官

一

書記生

一

計

(二)

外務省

朕在外公館職員定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年四月二十一日

内閣總理大臣

外務大臣

外務省

勅令第二百七十三號

在外公館職員定員令中左ノ通改正ス

第一條第一項第三號中「八十六人」ヲ「八十九人」ニ、同項第五號中「十二人」ヲ「十三人」ニ、同項第七號中「七十人」ヲ「六十九人」ニ、同項第九號中「三百九十七人」ヲ「四百二人」ニ、同條第二項中「十三人」ヲ「四人」ニ、「十八人」ヲ「五人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

滿洲國東西國境地方及北支地方ニ領事館、同分館及同出張所ヲ増設シ、アレキサンドロフスク總領事館オハ分館ヲ領事館トシ、在ソ聯邦大使館ヲ充實シ、在滿公館ニ防共關係ノ事務職員ヲ増置シ、ハンガリー國ニ公使館ヲ、維納ニ總領事館ヲ新設スル等ノ爲職員増員ノ要アルト、治外法權ノ撤廢ニ伴ヒ在滿領事館ヲ整理シ及司法職員ヲ減員シ竝ニ在奧國公使館ヲ廢止スル等ノ爲職員ヲ減ズルノ要アリ依テ本令ヲ改正シ差引領事四人、領事官補一人、理事官一人及書記生五人ヲ増員シ他面總領事一人、司法領事九人、副領事一人、外交官補一人及司法書記生十三人ヲ減ズルノ要アルニ依ル

内閣

説 明 書

(増員ノ部)

一 滿洲國東西國境地方ニ領事館及出張所等新設ノ爲竝總領事館格下等ニ伴ヒ左記職員ヲ夫々増置セントスルモノナリ

(イ) 密山領事館

領 事

一

書記生

二

計

(三)

(ロ) 虎林出張所 (密山領事館)

副領事

一

(ハ) 「ハロンアルシヤン」出張所 (海拉爾領事館)

外 務 省

副領事

一

(一) 同江出張所 (哈爾濱總領事館)

副領事

一

(二) 東寧出張所 (綏芬河領事館)

書記生

一

(三) 吉林總領事館ヲ領事館ニ格下ノ爲

領事

一

ニ北支地方ニ領事館及同分館、出張所等新設ノ爲左記職員ヲ夫々増

置セントスルモノナリ (此ノ分ハ追加豫算ニ依ル)

(四) 石家莊領事館

領事

一

書記生

三

計

(四)

(口) 包頭分館 (張家口總領事館)

副領事

一

書記生

一

計

(二)

(イ) 唐山分館 (天津總領事館)

副領事

一

書記生

二

計

(三)

(ニ) 塘沽出張所 (天津總領事館)

外務省

副領事

書記生

計

(外) 在北京領事館ヲ總領事館ニ昇格充實セシムル爲

副領事

三 在間島總領事館延吉分館ヲ領事館ニ昇格ノ爲左記職員ヲ増置セン

トスルモノナリ

領事

四 在「アレクサンドロフスク」總領事館「オハ」分館ヲ領事館ニ昇

格ノ爲左記職員ヲ増置セントスルモノナリ

領事

外務省

五 在「ソ」聯邦大使館ヲ充實ノ爲左記職員ヲ増置セントスルモノナ
リ

書記生 五

六 防共關係ノ事務ニ從事セシムル爲左記職員ヲ増置セントスルモノ

ナリ

理事官 一（滿）

副領事 一（哈爾賓）

書記生 六（滿、綏芬河、琿春、哈爾賓、黑河、滿

洲里）

計 （八）

七 在「ハンガリー」國公使館ヲ獨立ノ爲左記職員ヲ増置セントスル

モノナリ

公使

一

三等書記官

一

書記生

二

計

(四)

ハ 埃國維納ニ總領事館設置ノ爲左記職員ヲ增置セントスルモノナリ

總領事

一

領事官補

一

書記生

一

計

(三)

増員總計

外務省

公使	三等書記官	總領事	領事	領事官補	副領事	理事官	書記生	計
一	一	一	五	一	八	一	二四	(四二)

外務省

(減員ノ部)

一 在間島總領事館等廢館ノ爲左記ノ通夫々減員セントスルモノナリ

(1) 間島總領事館

總領事

一

副領事

一

書記生

四

計

(六)

(2) 通化分館

副領事

一

書記生

二

計

(三)

外務省

(一) 敦化分館

副領事

書記生

計

一

二

(三)

(二) 山城鎮分館

副領事

書記生

計

一

二

(三)

(三) 圖們分館

副領事

書記生

一

二

外
務
省

入 計ナリ (三)

(ハ) 扶餘分館 領事館ニ格下ノ爲

副領事 一

書記生 二

計生 (三)

ニ延吉領事館等昇格ニ件ヒ左記ノ通夫々減員セントスルモノナリ

(イ) 延吉分館領事館ニ昇格ノ爲

副領事 一

(ロ) 「オハ」分館領事館ニ昇格ノ爲

副領事 一

ニ在吉林總領事館等ヲ領事館等ニ格下ノ爲左記ノ通夫々減員セント

外務省

スルモノナリ

(イ) 吉林總領事館ヲ領事館ニ格下ノ爲

總領事

(一)

副領事

(一)

書記生

(一)

三等書記

(三)

(ロ) 安東領事館ヲ分館ニ格下ノ爲

領事

(一)

書記生

(二)

減員計

(三)

四 治廢關係ニ依リ司法職員ヲ左ノ通減ゼントスルモノナリ

外務省

(司法)領事 九

(司法)書記生 一三

計 (二二二)

在填國公使館廢館ノ爲左記職員ヲ減ゼントスルモノナリ

公使 一

三等書記官 一

外交官補 一

書記生 二

計 (五)

減員總計 (五六)

右ニ依公使在ノ通實増一員セラルルハ次表ナリ

外務省

右ニ依リ差引左ノ通實増減員セララルル次第ナリ

計	書記生	副領事	領事(司法)	領事	總領事	外交官補	三等書記官
(五六)	一三三	一九	九	一	二	一	一

外務省

總領事	減一
領事	增四
領事(司法)	減九
副領事	減一
外交官補	減一
領事官補	增一
理事官	增一
書記生	增五
書記生(司法)	減三
計	減四

朕昭和十二年勅令第六百八十一號在滿洲國大使館ニ教務事務官等ヲ
置クノ件中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年 四月 二十一日

内閣總理大臣

外務大臣

本令ハ公布ノ旨ヨリ之ヲ施行ス

外務省

朕昭和十二年勅令第六百八十一號在滿洲國大使館ニ教務事務官等ヲ
置クノ件中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十三年 四月 三十一日

内閣總理大臣

外務大臣

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外務省

勅令第二百七十四號

昭和十二年勅令第六百八十一號中左ノ通改正ス

- 第一條第一項中「教務事務官専任二人」ヲ「教務事務官専任三人」ニ改ム
- 二、「教務書記専任八人」ヲ「教務書記専任九人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

治外法權撤廢ニ伴ヒ在滿大使館教務部ノ新設ヲ見タルヲ以テ「教育ニ關スル事務從事臨時職員」中 大使館理事官一、書記生一、ヲ左記ノ職員ニ振替ヘントスルモノナリ

教務事務官

一

教務書記

一

計

(二)

参照

●外務省官制

明治三十一年十月二十二日
勅令第二百五十八號

第十二條 外務省ニ外務事務官專任六十二人及外務理事官專任八人ヲ置ク
奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十三條 外務省ニ翻譯官專任五人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ文書翻
譯ヲ掌ル

第十四條 外務省ニ電信官專任九人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ電信符
號ニ關スル事項ヲ掌ル

第十五條 外務省ニ技師專任二人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌
ル

第十六條 外務屬ノ定員ハ專任百七十八人トス

第十八條 外務省ニ技手專任八人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ電信、
建築其ノ他技術ニ従事ス



参照

●外務部内臨時職員設置制

昭和三年五月二日
勅令第七十八號

於昭和二年八月十九日臨時職員設置制(手取)并(裁可)シ
一九號、九年第二八四號、第四九二號、一〇年第三八三號、一一年第三三五號、
二年第一〇三號、一三年第一七七號、第三一二號、一五年第一一四號、
昭和二年第一八八號、四年第一六六號、八年第三二四號、九年第一四四號、第三五
〇號、一〇年第三三九號、一一年第三三六號、一二年第三二四號、第二九六號
外務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、外務
大臣副署)

第二條 滿洲及蒙古ニ關スル事務ニ從事セシムル爲外務省ニ左ノ職員ヲ置
キ東亞局ニ屬セシム

書記官 專任一人
事務官 專任二人
屬 專任二人

第三條 研究所及圖書館新築ニ關スル事務ニ從事セシムル爲外務省ニ左ノ
職員ヲ置キ文化事業部ニ屬セシム

技師 專任一人
助手 專任二人

第三條ノ二 滿洲事件ニ關スル事務ニ從事セシムル爲在外公館ニ左ノ職員
ヲ置ク

大使館參事官	專任一人	大使館一等書記官	專任一人
外交官補	專任二人	大使館三等書記官	專任四人
領事官補	專任十一人	大使館理事官	專任二人
書記生		副領事	專任一人
通譯生			

第三條ノ三 外國ニ於テ主トシテ教育ニ關スル事務ニ従事セシムル爲在外
公館ニ左ノ職員ヲ置ク

大使館理事官 專任一人

公使館理事官 專任一人

副領事 專任一人

書記生 專任二人

第四條 外國ニ於テ主トシテ警察事務ニ従事セシムル爲領事館ニ左ノ職員
ヲ置ク

領事 專任二人

副領事 專任三人

書記生 專任二人

通譯生 專任一人

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

日本標準規格B4列(十一行全)(富井納)

參照

●在外公館職員定員令

明治三十二年六月二十日
勅令第二百八十一號

改正 明治三十三年第二〇號、三十四年第一二四號、三十五年第一九八號、三十六年第二一〇號、
三十八年第一〇七號、第二四四號、三十九年第一六八號、四一年第一五六號、四二年第二
二七號、四三年第二五八號、四四年第二〇九號、
大正二年第一四〇號、第二九二號、四年第一一〇號、五年第一〇六號、七年第一三
二號、第二二四號、八年第二四八號、九年第四九五號、一〇年第三八七號、一一年
第三三六號、第五〇六號、一二年第七〇三號、第三八六號、一四年第六一號、一五
年第一二二號
昭和二年第一九二號、三年第一五五號、四年第二五三號、第二六九號、七年第三六
四號、八年第一〇七號、九年第一四六號、第二三八號、一〇年第三三二號、第三一
五號、一一年第三八五號、第四二〇號、一二年第二五七號

朕在外公館職員定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、外務)
(大臣副署)

在外公館職員定員令

- 第一條 外交官、領事官、貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、大使館電信官、公使館電信官、外務書記生、外務通譯生及外務電信書記生ノ定員左ノ如シ
- 一 特命全權公使、大使館參事官、大使館商務參事官及辦理公使ハ通シテ三十一人
- 二 大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記官、大使館商務書記官、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及公使館商務書記官ハ通シテ八十五人
- 三 總領事、領事及貿易事務官ハ通シテ八十人
- 四 大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ハ通シテ十九人
- 五 大使館理事官及公使館理事官ハ通シテ十二人

六 大使館電信官及公使館電信官ハ通シテ七人

七 副領事ハ七人

八 外交官補及領事官補ハ通シテ六十三人

九 外務書記生、外務通譯生及外務電信書記生ハ通シテ三百九十九人

前項定員ノ外訴訟事件及非訟事件ニ關スル事務並登記事務ニ從事セシムル爲領事、副領事ヲ通シテ十三人及外務書記生十九人ヲ置ク

外交官領事官ヲ兼任シ又ハ領事官外交官ヲ兼任スルトキハ其ノ兼任ハ定員ノ内ニ算入セズ

第二條 特命ノ外交官、領事官、貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、大使館電信官及公使館電信官ハ通シテ十一人トシ前條定員ノ内ニ算入セズ

附則

外交官、領事官、通譯官、書記生、通譯生定員令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

參照

朕在滿洲國大使館ニ教務事務官等ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十二年十一月三十日

內閣總理大臣 公府 近衛 文麿

外務大臣 廣田 弘毅

勅令第六百八十一號(官報十二月一日)

第一條 昭和十二年勅令第六百八十號ニ依リ滿洲國駐節特命全權大使ノ管理スル事務ニ從事セシムル爲在滿洲國大使館ニ左ノ職員ヲ置ク

教務事務官 專任二人 奏任

視學官 專任二人 奏任

技師 專任一人 奏任

教務書記 專任八人 判任

視學 專任五人 判任

技手 專任三人 判任

教務事務官ハ勅任ノ官ニ在ル者ヲシテ之ヲ兼ネシムル場合ニ於テハ本官ノ官等ニ依ル

參照		昭和十三年度外務省所管豫算		歳出經常部		外務本省		給	
第二目	奏任俸給	員數	一人當年額	金額	備考	員數	一人當年額	金額	備考
第三節	事務官	六一人	二、八八〇圓	一七五、六八〇圓	（六〇〇圓）	六一人	二、八八〇圓	一七五、六八〇圓	（六〇〇圓）
第五節	翻譯官	六人	二、六四〇	一五、八四〇	（六〇〇圓）	六人	二、六四〇	一五、八四〇	（六〇〇圓）
第七節	技師	二人	二、八八〇	三、五七六〇	（六〇〇圓）	二人	二、八八〇	三、五七六〇	（六〇〇圓）
第三目	判任俸給								
第一節	屬	一七四人	九八五	一七〇、八九八	（六〇〇圓）	一七四人	九八五	一七〇、八九八	（六〇〇圓）
第三節	技手	一〇人	九八五	九、八五〇	（六〇〇圓）	一〇人	九八五	九、八五〇	（六〇〇圓）



第三節 對 第一款 在外公館 第一項 俸 此八莊給 廿〇八八八 內二八八六	第二款 在外公館 第一項 俸 此八莊給 廿〇八八八 內二八八六	第二節 商務書記官 一 俸 三六四〇 二 俸 二五四八〇	第三節 總領事 一 俸 三六四〇 二 俸 七七六五四	第四節 二等書記官 一 俸 三二〇〇 二 俸 八九〇六七	第一目 勅任俸給 八 四六五〇 三七二〇〇	第五節 總領事 八 四六五〇 三七二〇〇	第一目 奏任俸給 六 二六四〇 一五八四〇	第二節 一等書記官 二四 三六四〇 一八六九〇	第一目 奏任俸給 六 二六四〇 一五八四〇	第二節 商務書記官 一 俸 三六四〇 二 俸 二五四八〇	第三節 總領事 一 俸 三六四〇 二 俸 七七六五四	第四節 二等書記官 一 俸 三二〇〇 二 俸 八九〇六七	
		內 一人 俸命全額 一人 俸命三分ノ一 (一、二一四圓)		內 一人 俸命全額 一人 俸命三分ノ一 (一、二一四圓)		內 一人 俸命全額 一人 俸命三分ノ一 (一、二一四圓)		內 一人 俸命全額 一人 俸命三分ノ一 (一、二一四圓)		內 一人 俸命全額 一人 俸命三分ノ一 (一、二一四圓)		內 一人 俸命全額 一人 俸命三分ノ一 (一、二一四圓)	

(日本標準規格B4列) (木村納)

內 閣

第五節 領事辦事	五九人	三、〇四〇圓	一七九、三六〇圓	內三人ハ商務領事
第六節 司法領事	四	三、〇四〇圓	一、一六〇	內二人ハ待命全額 一人ハ六ヶ月分 (一、二八五圓)
第七節 三等書記官	三	二、五七〇圓	九六、三七五	內二人ハ待命全額 一人ハ六ヶ月分 (一、二八五圓)
第九節 理事官	一	二、二八〇圓	二九、六四〇	內二人ハ經理官
第十節 副領事	六	二、三八〇圓	一五、一六二〇	內三人ハ商務副領事 一人ハ待命全額 二人ハ六ヶ月分 (一、一四〇圓)
第三目 判任俸給				
第一節 書記生及通譯生	四〇一	九八五	三九二、〇三一	內五人ハ電信書記生 一人ハ三人ハ商務書記生 六人ハ六ヶ月分 (三、九五六圓)
第二節 司法書記生	五	九八五	四九二、五	

第四款 在滿大使館教務部費

第一目	奏任俸給	第一項	奏任俸給	六八五	四六二五	內六人(二六五)
第一節	教務事務官		三	三、二〇〇	九六〇〇	內三人(二六五)
第二目	判任俸給					
第一節	教務書記		九	九八五	三八八五	內六人(二六五)
第三目	臨時部					
	第一款	營繕費				
	第一項	在外公館修築費	一三	二、九五五	二六六〇〇	內二人(二八五)
第二目	判任俸給					
	技手三人分一人年額九百八拾五圓ノ割					內一人(二八五)
	第十款	臨時外交施設費				內一人(二八五)
	第六款	臨時外交施設費				內三人(二八五)
第二目	勅任俸給					

(日本標準規格B4判) (木村納)

參事官一人分年額五千百圓

第二目 奏任俸給

第一節	書記官	一人	三一、二〇〇圓	三一、二〇〇圓
第二節	事務官	四	二、八八〇	一、一五二〇
第三節	翻譯官	一	二、六四〇	二、六四〇
第四節	理事官	一	二、二八〇	二、二八〇
第五節	一等書記官	一	三、六四〇	三、六四〇
第六節	三等書記官	四	二、五七〇	一〇、二八〇
第七節	大使館理事官	一	二、二八〇	二、二八〇
第八節	副領事	一	二、二八〇	二、二八〇
第九節	外交官補	一	一、八〇〇	一、八〇〇
第十節	領事官補	一	一、八〇〇	一、八〇〇
第三目	判任俸給			

第一節	屬	一五	九八五	一四七七五
第二節	書記生及通譯生	八	九八五	七八八〇
	第十四款			
	滿洲國治外法權撤廢善後處理費			
	第一項			
	滿洲國治外法權撤廢善後處理費			
第一目	奏任俸給		一三、一六〇	
	司法領事四人分一人年額參千四拾圓ノ割			
第二目	判任俸給			
第一節	司法書記生	四	九八五	三、九四〇

(日本標準規格B4判)(木村納)

參照

昭和十三年度外務省所管對支文化事業豫算

歲出

第一款 對支文化事業費

第一項 俸給

第二目 奏任俸給

節	員數	一人當年額	金額	備考
第二節 事務官	三人	二、八八〇 <small>圓</small>	八、六四〇 <small>圓</small>	九ヶ月分
第四節 一等書記官	一	三、六四〇	二、七三〇	九ヶ月分
第三目 判任俸給				
第一節 屬	一一	九八五	一〇、八三五	
第二節 書記生	一	九八五	七三九	九ヶ月分

本省

在外公館
一年三ヶ月分

本省

在外公館
一年三ヶ月分

參照

昭和十三年度外務省所管對支文化事業豫算

歲出

第一款 對支文化事業費

第一項 俸給

第二目 奏任俸給

節	員數	一人當年額	金額	備考
本省 ↓ 第二節 事務官	三人	二、八八〇 <small>圓</small>	八、六四〇 <small>圓</small>	九ヶ月分
在外公館 一年三ヶ月分 ↓ 第四節 一等書記官	一	三、六四〇	二、七三〇	九ヶ月分
本省 ↓ 第三目 判任俸給				
本省 ↓ 第一節 屬	一一	九八五	一〇、八三五	
在外公館 一年三ヶ月分 ↓ 第二節 書記生	一	九八五	七三九	九ヶ月分

參照

昭和十三年度外務省所管追加豫算

歲出經常部

第二款 在外公館

第一項 俸給

第二目 奏任俸給

節	員數	一人當年額	金額	備考
第五節 領事	一人	三、〇四〇 <small>圓</small>	三、〇四〇 <small>圓</small>	
第十節 副領事	四	二、二八〇	九、一二〇	
第三目 判任俸給				
第一節 書記生及通譯生	七	八、九八五 <small>圓</small>	六、八九五	

第一目 臨時部

第一款 經營公費

第三項營在支公館廳舍其他新營並修繕費

第一目 判任俸給 出 二九五五

技手三人分一人年額九百八拾五圓ノ割八此五

第三目 判任俸給

第十號 出 二二八〇 共 二二八〇

第五號 出 三〇四〇 共 三〇四〇

出	一人當取	金	額

第二目 判任俸給

第一號 出 共 共

第二號 出 共 共

出 共 共

第十號 出 共 共

(日本標準規格B4列) (木村納)

定員、現員調（昭和十三年三月末現在）

		本省關係					在外關係				
		官名	定員	現員	員缺	官名	定員	現員	員缺	員	
外務省	事務	事官	六二	五六	六	大公使館	八六	八五			
	翻譯	翻譯官	一五	一五	〇	書記官	八六	八五			
	技師	技師	一	一	〇	總領事	八七	八五			
	屬手	屬手	一七八	一六三	一五〇	領事官	八七	八五			
										臨時超過	
										一四	

外務省

は(イ)

18.3

<p>事務官 四人ハ經常事務官ニ付テ以テ此ノ際 ハ僱員ヲ見合ヌコトトス 法制局 主任官</p>	通書	領外	副理	大翻	公事	大書記	官	臨時外交事務從事臨時職員（本省職員）
	書記	官	官	官	官	官	名員	
	生	補	補	官	官	官	數	
	電信課	會計課	文書課	人事課	會計課	一	配	置
	二	二	二	二	歐亞局第一課	東亞局第三課	東亞局第三課長	
	亞米利加局第一課	情報部第一課	通商局第三課	東亞局第三課	東亞局第一課	一	三	
	一	一	一	二	二			

外務省

臨時外交事務從事臨時職員（在外職員）		官名	員數	配置
大使館	參事官	一	白耳義	
大使館	一等書記官	一	滿洲國	
大使館	三等書記官	四	佛 國 中 華 民 國	二 二
公使館	三等書記官	一	滿洲國	
大使館	理事官	一	廣 東	
副領事	領事官	二	中 華 民 國 厦 門	
外務省	補官	一	浦 潮	
外務省	補官	一	滿洲國	五
通書	書記生	八	中 華 民 國	二 一

は(イ)

治外法權撤廢殘務整理臨時職員

官名

員數

配

(三月二十一日)

(司法)領事
(司法)書記生

四

奉天、新京、哈爾濱、延吉
十五日調遣外務省
右ニ同ジ

一 在伯林伊國大使ハ本國政府ノ訓令ニ依リ獨逸外務省ニ對シ伊國ハ
在奧公使館ヲ廢止シタルコト、在維納及在一インスブルク各領事館ヲ
領事館並ニ在一グラーツ及在一クライゲンフルト各領事館ヲ
在獨伊國大使館ノ監督ニ屬セシムルコトヲ通牒シタル旨十七日始
終ニ於テ發致セラル(獨來電一四二)
二 南亞馬ニ於テモ十七日在奧伊國公使館ヲ正式ニ閉鎖セル旨發致セ
ラル(伊來電一二五)
三 前歐洲方面ノ領事館ハ在奧米國公使館ハ總領事館ニ接下サセ
ラルコトトナルヘシ(尤モ右格下ケハ「アヂニアバ」本報公

外務省

使館獨塊合併ニ依ル各國ノ駐塊公使館處置振ルニ止マリ獨ノ塊
太利合併承認ノ問題トハ關係ナキ由一 (三月二十四日)

一、在伯林洪牙利公使ハ本國政府ノ訓令ニ依リ三月十五日獨逸外務省
ニ對シ在維納同國公使館ヲ總領事館ニ變更スルコトニ決シタル旨
申入レタル趣發表セラル (獨來電一三四)

二、在伯林伊國大使ハ本國政府ノ訓令ニ依リ獨逸外務省ニ對シ伊國ハ
在塊公使館ヲ廢止シタルコト。在維納及在「インスブルク」各總
領事館竝ニ在「グラーツ」及在「クライゲンフルト」各領事館ヲ
在獨伊國大使館ノ監督ニ屬セシムルコトヲ通牒シタル旨十七日伯
林ニ於テ發表セラル (獨來電一四二)

尙羅馬ニ於テモ十七日在塊伊國公使館ヲ正式ニ閉鎖セル旨發表セ
ラル (伊來電一二五)

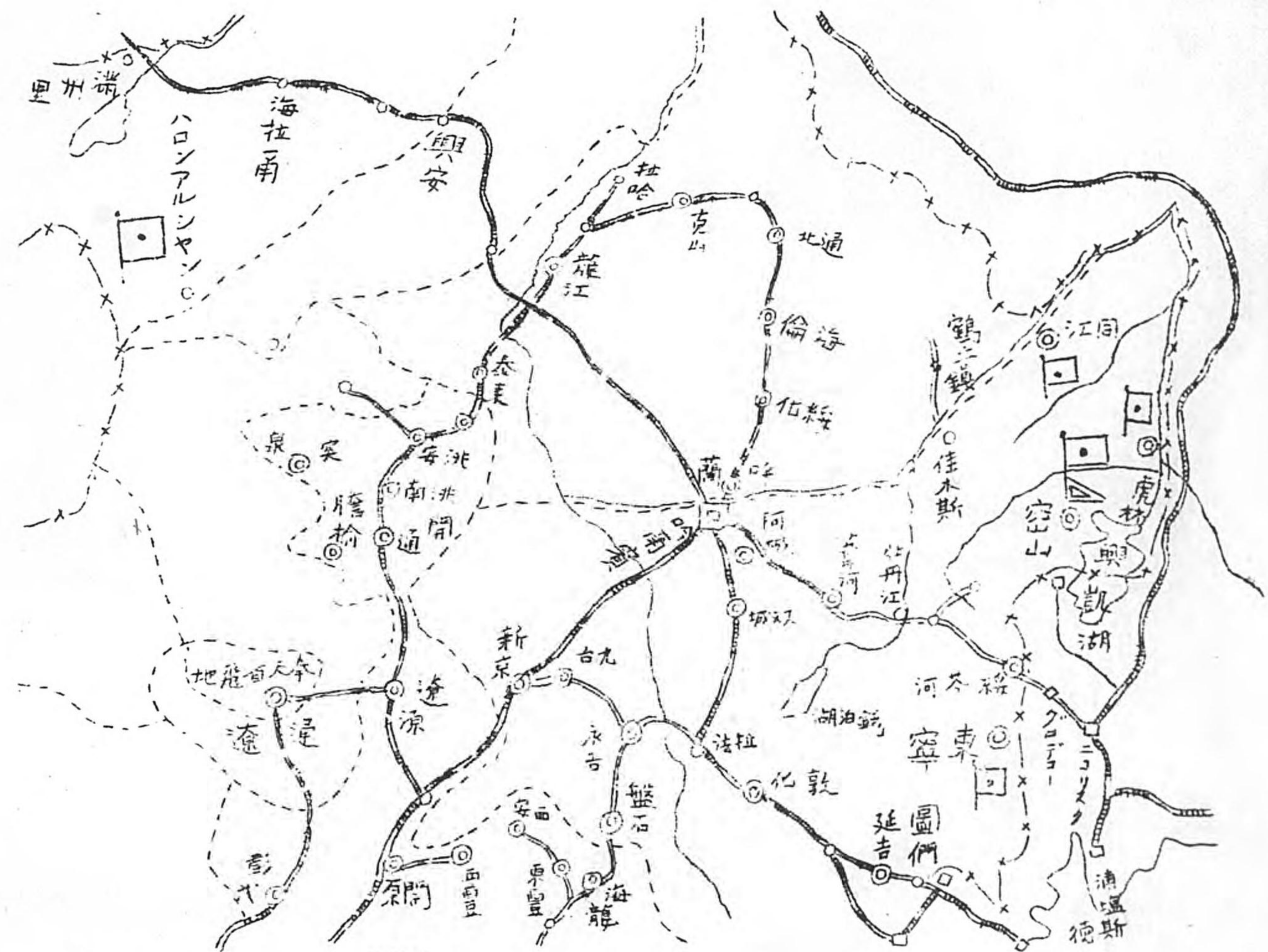
三、消息通方面ノ觀測ニ依レハ在塊米國公使館ハ總領事館ニ格下ケセ
ラルルコトトナルヘシ (尤モ右格下ケハ「アチスアベバ」米國公

は(ト)

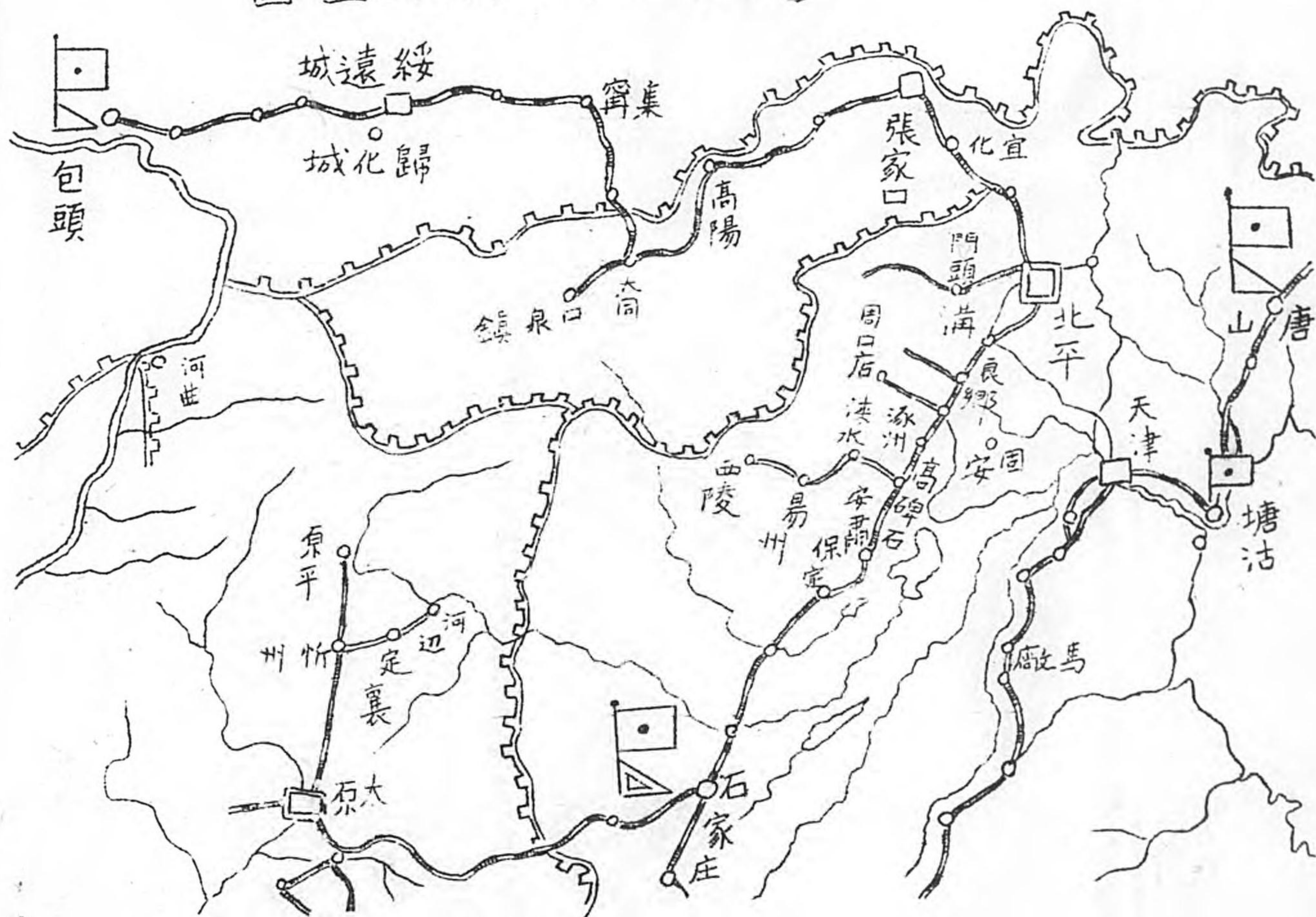
使館ヲ閉鎖シタル場合ト同様單ニ事實ヲ認メタルニ止マリ獨ノ埃
太利合併承認ノ問題トハ關係ナキ由（米來電一四九）
四、瑞西政府ハ目下對埃關係調整方ニ付研究中ナルカ若シ維納ノ公使
館ヲ閉鎖スル場合ニハ洪牙利ニ設置スルコトトナルヘキ旨傳ヘラ
ル

は（ト）

滿洲國於日本國新設在外公館配置圖



圖置配館公外在設新國本日ルケ於=支北



秘

寫

昭和13

八九七一

(暗)

伯林
本省

三月廿九日後發
三十日前着

歐

廣田外務大臣

東郷大使

第一六八號

往電第一六一號ニ關シ

獨逸側ニテハ右我方ノ申出ヲ多トシ新聞等ニ發表シ居レル處

一、伊、波、土、英、「ユーゴスラヴィヤ」、瑞西、瑞典等ノ諸國

ハ既ニ在維納公使館ヲ廢止シ現實ニ領事館ヲ開設スルコトナリ

タル現状ニ顧ミ我方ニ於テモ急速ニ國內手續ヲ完了セラルルコト

必要且効果的ナリ

ニ「ブダベスト」ニ公使館設置ノ御豫定ニ付テモ速ニ御實行然ルヘ

ク現ニ當地出張ノ諏訪代理公使ノ言ニ依ルモ維納公使館ヲ廢止シ
タル諸國ハ何レモ「ブダベスト」ニ移轉セントスル趣ニテ公使館
ニ適當ナル家屋拂底シ家賃モ騰貴ノ傾向ニアル由ナリ

^三在

洪牙利公使館ノ新設ニ伴ヒ地理的及國際的關係上在洪牙利公使ヲ
シテ勃牙利、「ユーゴースラヴィヤ」竝ニ「アルパニヤ」ヲ兼任
セシムルコト適當ト認メラル（了）

昭和15 九四八七 平

伯林 四月三日發
本省 四日前着

試

廣田外務大臣

東郷大使

第一七六號

諸外國ノ在埃公使館廢止ニ關シテハ既報ノ通りナル處其ノ後在獨英
 國大使ハ四月二日本國政府ノ訓令ニ依リ獨逸政府ニ對シ公文ヲ以テ
 一、英國政府ハ在維納同國公使館ヲ引揚ケ代ルニ總領事館ヲ以テス
 ルコトヲ決定シ右ハ來ル十五日頃實行ノ意嚮ナル旨ヲ通告スルト
 共ニ現在「ムエンチエン」總領事「ガイナー」ヲ維納總領事ニ專
 任スルコト一ナルニ付右ニ對シ認可狀ヲ與ヘラレ度キ旨ヲ要求シ
 二、埃太利カ獨立主權國タル存在ヲ失ヒタルコトニ依リ至スル國際諸

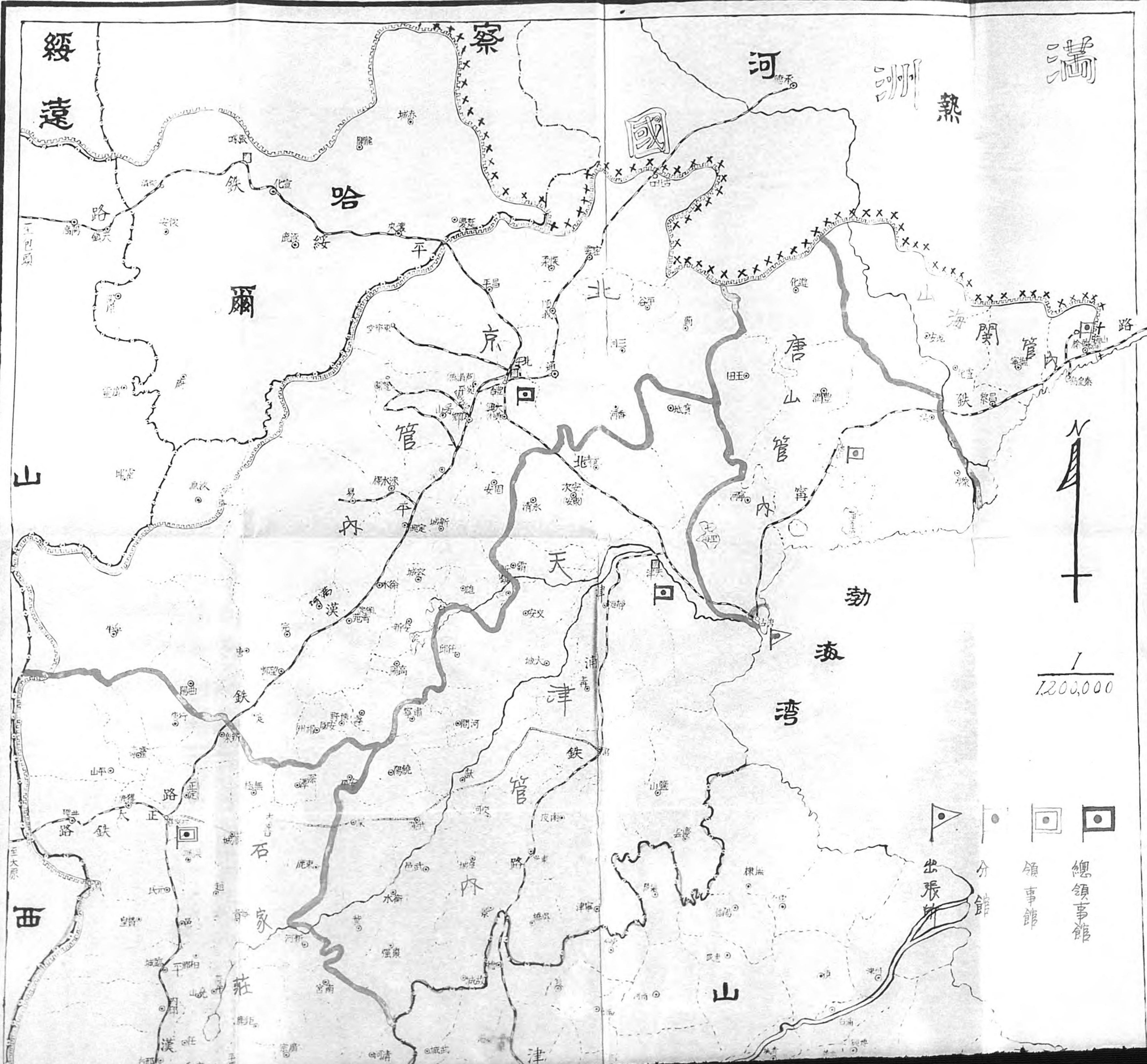
條約並ニ其ノ他ノ問題ニ關スル英國政府ノ態度ヲ留保スルト共ニ
右ニ關シ適當ナル時機ニ更ニ何等通告ヲ爲スヘキ旨

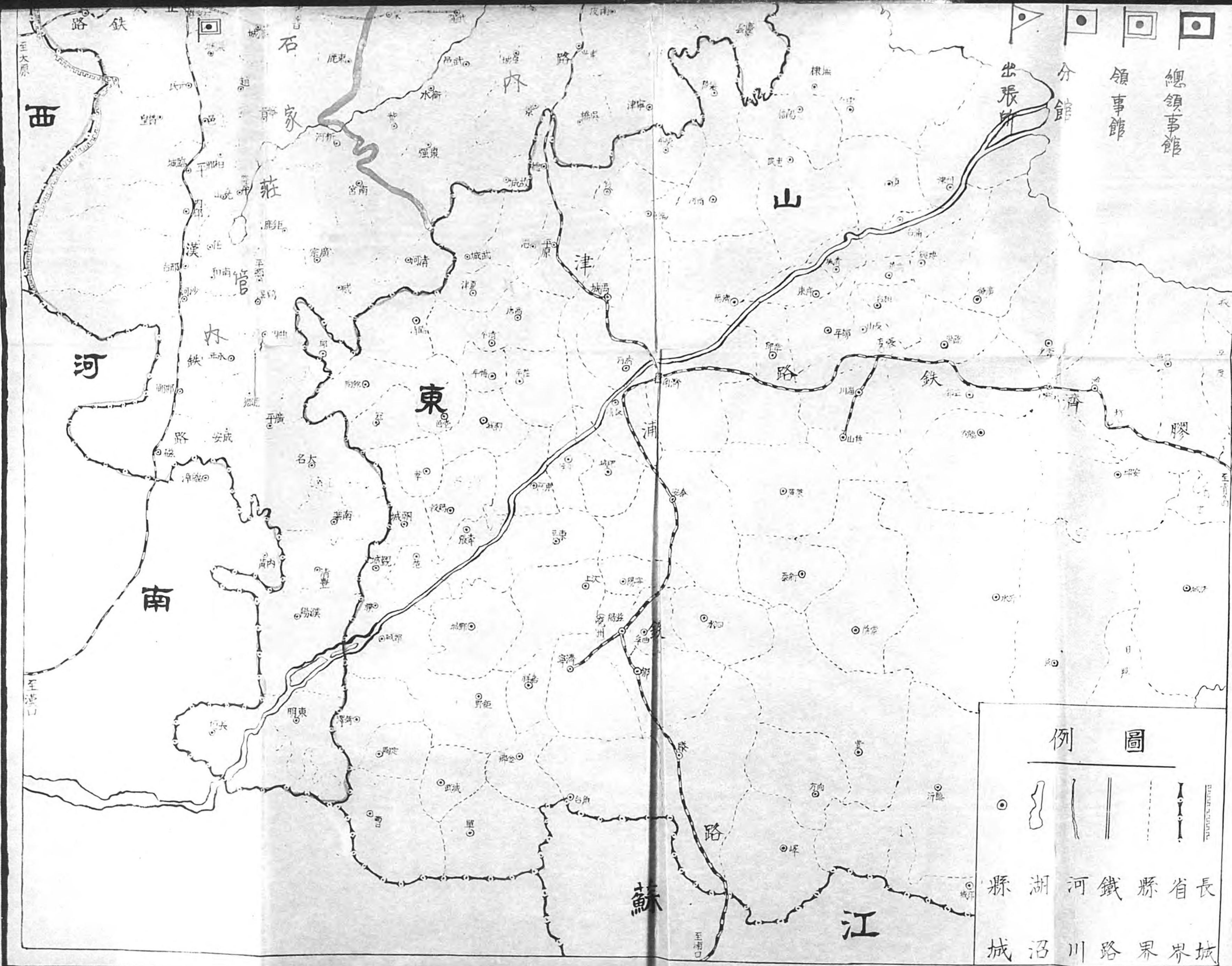
ヲ通告セリ尙在獨攷國公使モ獨逸政府ニ對シ四月二日限り在維納同
國公使館ヲ廢止スヘキ旨ノ同國政府ノ決定ヲ通告セルカ在維納同國
總領事館ハ新ニ認可狀ヲ得依然存續スル趣
英、政、奧へ轉電シ在歐各大使、米へ郵送セリ

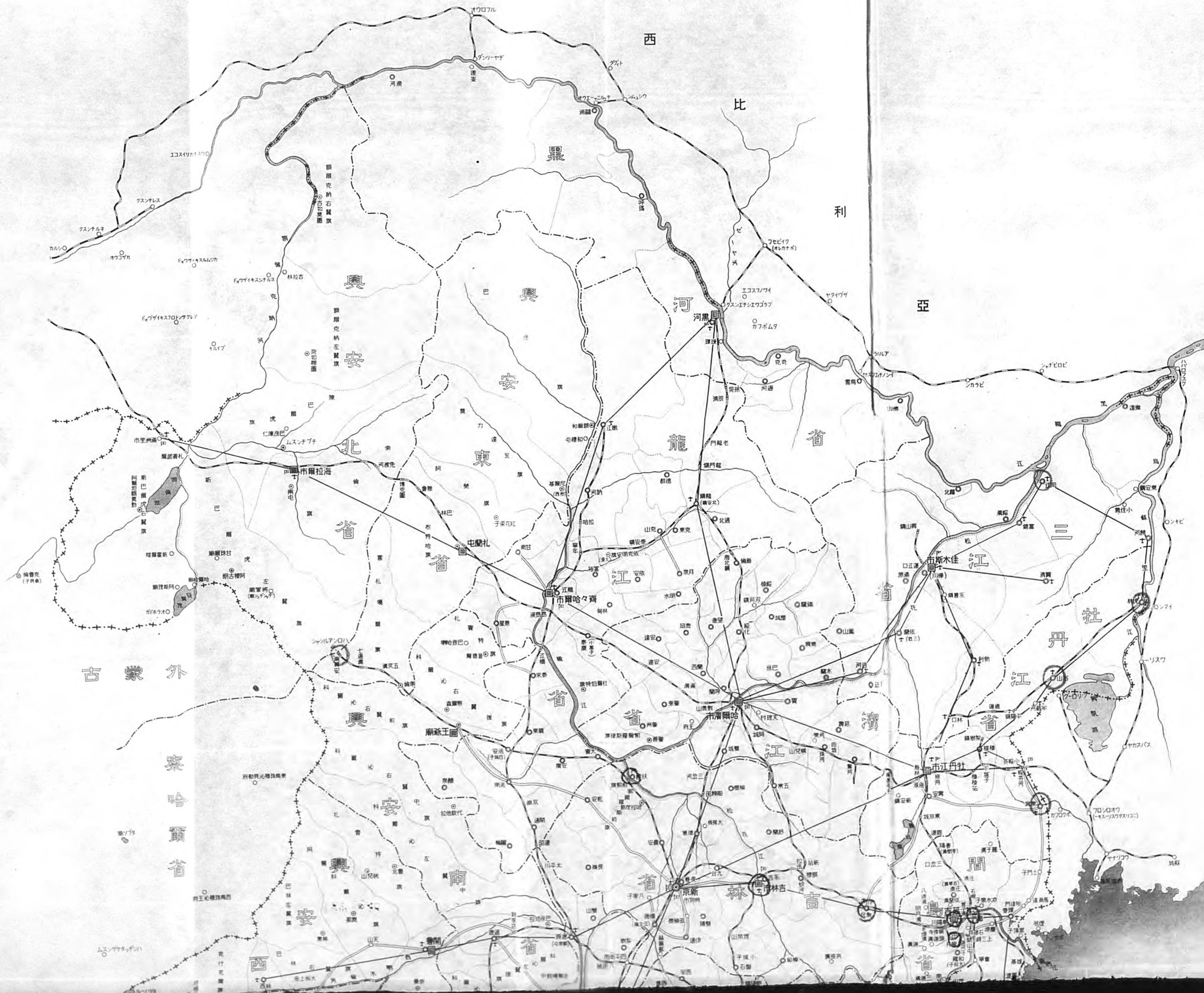
参考

IMT 646

270







外蒙古

察哈爾省

西
比
利
亞

黑龍江省

興安省

北省

東省

省

省

省

省

省

省

省

省

省

省

丹

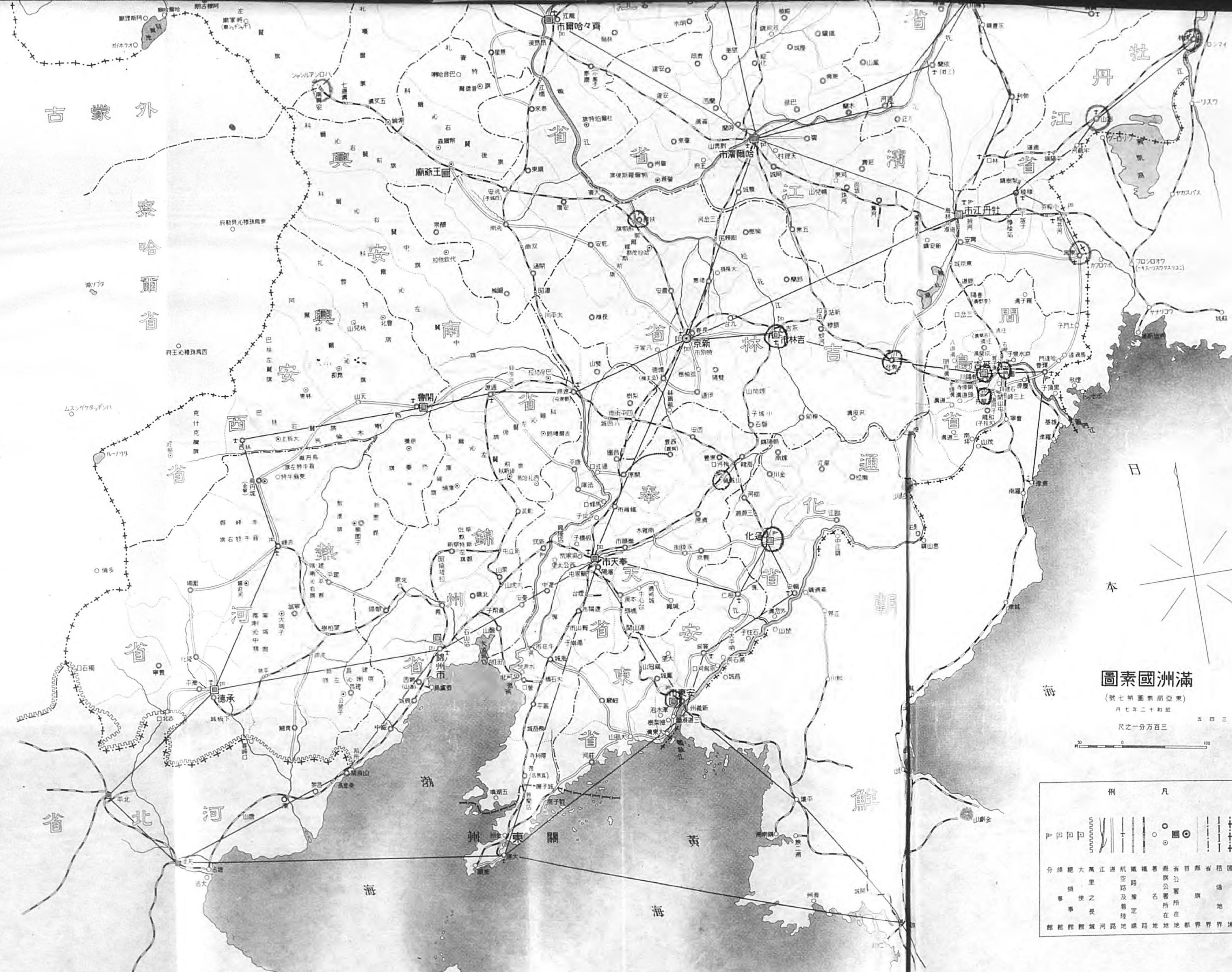
江

省

省

省

省



滿洲國素圖

(號七第圖素國亞東)

月七年二十和記

尺之一分万百三

五 四 三



例 凡

分	界	大	江	運	航	鐵	路	省	界	省	界	省	界	國
分	界	大	江	運	航	鐵	路	省	界	省	界	省	界	國
分	界	大	江	運	航	鐵	路	省	界	省	界	省	界	國
分	界	大	江	運	航	鐵	路	省	界	省	界	省	界	國

分界 大 江 運 航 鐵 路 省 界 省 界 省 界 國

分 界 大 江 運 航 鐵 路 省 界 省 界 省 界 國

分 界 大 江 運 航 鐵 路 省 界 省 界 省 界 國

分 界 大 江 運 航 鐵 路 省 界 省 界 省 界 國